

知る 遊ぶ 学ぶ

天竜川ひろば

天竜川に関する施設の情報を届けます。



岡谷市 ● 釜口水門 岡谷市湊1-9-5 TEL 0266-22-6866 → 中面イラストマップ内 D

ここが、天竜川の出発点。

諏訪湖の水は唯一釜口水門から流れ出ていきます。つまりこの釜口水門は、天竜川の出発点なのです。初代の水門ができたのは、昭和11年。大洪水がきっかけとなり、諏訪湖の最も重要な治水事業として建設されました。構造は鉄鋼ゲートが7つ、舟通しや魚道もある当時としてはモダンな水門でした。



天竜川はここから伊那谷など約210kmを流して太平洋へ。



水門の上は歩いて渡れ、目の前で放水の様子を見ることができます。

昭和63年、現在の水門にパトタッチ。

しかし、その後も洪水による被害が続いたため治水計画が見直され、昭和63年には新しい水門が完成。半世紀にわたる役目を終えた初代の水門は、平成3年に取り壊されましたが、舟通しと管理橋の一部が残されています。



初代水門の一部は、現在の水門の80m下流にあります。

諏訪湖の治水の歴史を語る資料。

現在の水門が作られると同時に、周辺の湖畔も整備され、「水と緑と文化の広場」として、憩いの場となっています。管理棟2階の「水の資料室」では水と人、自然、生活とのかわりや、旧釜口水門の歴史について紹介しています。



水の大切さや釜口水門の役割を知る事ができる場所。

開館時間 / AM8:30 ~ PM5:00
休館日 / 1月1日 ~ 1月3日
駐車場 / おもてなし無料
入館料 / 無料



飯田市 ● 天竜川総合学習館「かわらんべ」 飯田市川路 7674 番地 TEL 0265-27-6115 → 中面イラストマップ内 E

新学期を迎え、かわらんべ講座もより充実!



自然の中に飛び出して、楽しみながら学びます。

毎週土曜日に行われているかわらんべ講座も、すでに100回を超えました。誰でも楽しんで自然とふれあえるような内容です。環境の問題をより身近に感じられるようなものもあります。ぜひ参加してください。

●講座スケジュール

4月	10日(土)「水生生物調査」 17日(土)「水の神様めぐり」 24日(土)「春の鳥」
5月	1日(土)「伊那谷野草園説明会」 8日(土)「製糸工場と井水」 15日(土)「自然度を調べよう」 22日(土)「春の押し花」 29日(土)「チョウの採集と標本づくり」
6月	5日(土)「鉱山めぐり」(大人対象) 12日(土)「花粉の観察」 19日(土)「かわらんべは寒い?」 26日(土)「虫かご作り」

6月5日「鉱山めぐり」はAM9:00 ~ PM4:00
それ以外はAM9:00 ~ AM11:00



開館時間 / AM9:00 ~ PM5:00
休館日 / 毎週月曜日および祝日の翌日
ホームページ <http://www.tenjo.go.jp/kawaranbe/>

天竜川の仲間たち

天竜川で活躍する団体からのお知らせ

三峰川みらい会議

みんなの三峰川を次世代に

こんにちは「三峰川みらい会議」です。私たちは、「みんなの三峰川を次世代に」を基本テーマに、一般参加者による話し合いによって三峰川の「環境」「治水」「利水」の将来像を策定した「三峰川みらい計画」の実現をめざし、河川環境に関係するさまざまな活動に取り組んでいます。現在までに、横原河川公園上部の「三峰川に遊び、学ぶ広場の整備」、高遠ダムから山田地区までの「渓谷美を生かす自然と水を保全した整備」、青島地区の「三峰川景観と桜並木の保全と整備」について、地域のみなさんと話し合いながら計画の実現を図ってきました。



三峰川に親しみながら、川の未来について意見を交換しています。

また、会員による環境活動では、アレチウリ駆除大作戦、三峰川自然学校、三峰川写生大会、三峰川源流域とヤマト岩魚の保護、水害の歴史と川に水の無い区間の解消、桜堤防の保全、カヌー等々について、多くのみなさんと共に取り組んでいます。

ともに活動していただけるみなさんの入会をお待ちしています。興味のある方は、下記までお問い合わせください。



みんなで力をあわせて、帰化植物のアレチウリ駆除を行っています。

代表 / 織井 秀夫
伊那市東春近9195-1 TEL 0265-72-6850
事務局長 / 高島 良幸
高遠町小原305-1 TEL 0265-94-2154



国土交通省
天竜川上流
河川事務所

●みなさまからの情報、ご要望などをお待ちしています。
天竜川上流河川事務所「天竜川通信」係
〒399-4114 長野県駒ヶ根市上穂南7-10
TEL 0265-81-6411 FAX 0265-81-6421
Eメール tenryo@cbr.mlit.go.jp
次号は平成16年7月発行予定です

●ホームページでは天竜川の「現在水位」や、いざというときの「浸水想定区域図」など防災情報も発信しています
ホームページアドレス
<http://www.cbr.mlit.go.jp/tenryo/>



笑顔、きらきら、天竜川。
天竜川上流
河川事務所

天竜川通信

2004
spring
vol.3

「天竜川通信」では、四季折々の自然、遊び、川を舞台にした活動、新しいニュースなど、天竜川の魅力再発見につながる情報をお届けします。天竜川を“見る”“遊ぶ”“学ぶ”“体験する”ツールとして、ぜひお役立てください。



雪が残るアルプスを眺めながらお花見。伊那谷ならではの贅沢な春です。

天竜川の食べられる植物たち

ハリエンジュ(ニセアカシア)
甘い香りを天ぷらで楽しむ。切っても新たに生えてくる生命力の非常に強い帰化植物です。枝の先から垂れ下がる白い花には、蜜がたっぷり。つぼみや花は、天ぷらにすると甘くて美味。

つくし(スギナ)
小さな春を探しに行こう。つくしとスギナは同じ植物で、地下茎でつながっています。はかまを取ってゆてから、煮物やおひたしなどにして食べます。

カンゾウ(ヤブカンゾウ)
花もツボミもほんのり甘い。日当たりの良い野原などで見られます。やわらかい若芽はアゼのほろい味で、さまざまな料理に使えます。夏に咲くコリに似た花も、なんと食用です。

ナズナ
おなじみ、春の七草のひとつ。別名へんぺん草。ハート型の実が三味線のバチに似ていることからそう呼ばれています。七草粥以外にも、おひたしやゴマ和え、酢の物もおすすめです。

ふきのとう(フキ)
春を告げる愛らしい使者。独特の苦味がクセになる、春の山菜。つぼみは天ぷらにしたり、味噌で煮たり焼いたり、みぞ汁に入れてもおいしく食べられます。

川を歩く!

待ちに待った春が、いよいよ伊那谷にやってきました。うらかな陽射しを浴びながら、春の息吹を訪ねてみませんか? ゆっくり歩いて、天竜川の魅力再発見!

ご存知ですか? この標識



こちらは代表的な距離標。例えば河口から163.6キロメートルならこう表示されています。このように板タイプもあります。天竜川の堤防で、こんな距離標を見かけたことはありませんか? これは「距離標」といって、河口からの距離を示すものです。天竜川の河口から200mごとに置いてあります。(支川では本川からの距離を示します)ただし、この距離標は川の中心で測っているため、堤防にある距離標と距離標の間の距離がちやうど200mというわけではありません。

いま伊那谷では帰化植物が増えています

帰化植物とは海外から日本に持ち込まれた植物の中で、野生化した植物のこと。在来植物より競争力が強いので、年々増え続け、伊那谷では河原の植物の約3割を帰化植物が占めています。

オオキンケイギク
北アメリカ原産。庭園の花壇などで栽培されていたものが野生化し、あちこちで大きな群落をつくっています。黄色い花が咲き、5月下旬~6月頃に花が散らばります。

シナダレスズメグサ
南アメリカ原産。乾燥に強いので、主に緑化用として輸入されました。葉は長さ40~60cm、幅1.5~2mmと細長く、弓形にしたために地面に垂れ下がるのが特徴です。

アレチウリ
北アメリカ原産。1952年に静岡県清水港で見つかりました。繁殖力が強く、短期間で広範囲に分布します。つるであらゆる植物にからみつき、枯らしてしまします。